

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果 ～安平町の児童・生徒の概況～

1 調査目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

2 調査実施日 令和7年4月17日(木)

3 調査対象(実施総数)

(1) 小学校・義務教育学校(前期課程)

調査対象	安平町	北海道(公立)	全国(公立)
第6学年	62	34,203	836,137

(2) 中学校・義務教育学校(後期課程)

調査対象	安平町	北海道(公立)	全国(公立)
第3学年・第9学年	41	33,467	870,560

4 調査内容

- (1) 教科に関する調査
 - ・ 小学校 (国語 算数 理科)
 - ・ 中学校 (国語 数学 理科)
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
 - ・ 児童・生徒に対する調査
 - ・ 学校に対する調査

5 内容構成

- (1) 教科に関する調査の状況
 - ・ 平均正答率・平均IRTスコア
 - ・ レーダーチャート
 - ・ 各教科の傾向
- (2) 結果チャート
 - ・ 教科を中心とした学力・学習状況
 - ・ その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)
- (3) 質問調査の状況

安平町教育委員会
令和7年9月

令和7年度全国学力・学習状況調査 安平町内の状況及び今後の改善方策

○ 教科に関する調査の状況

小学校数:2校、児童数:62人 中学校数:2校、生徒数:41人

【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコアで集計されています

※IRTスコアは、各設問の難易度などを用いて、能力値を推定して算出した値です

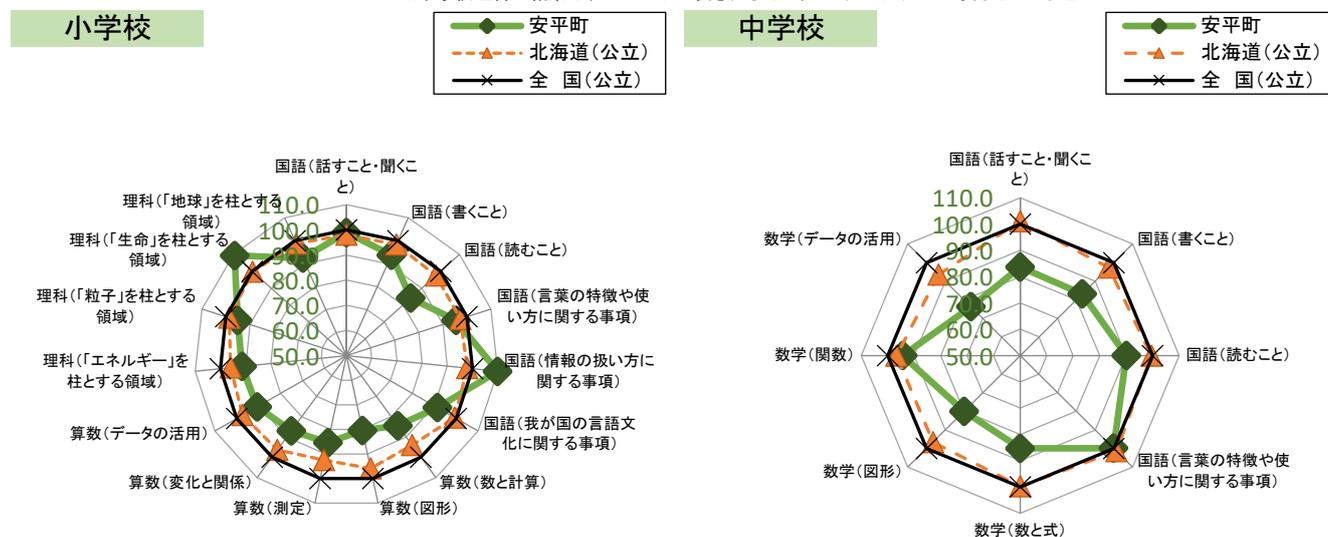
	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
安平町	63	48	55	48	40	492
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503
全国値との比較	やや下回る	下回る	ほぼ等しい	少し下回る	少し下回る	下回る

【レーダーチャート】

※教科の領域別に全国を100とした場合の全道および市町村の状況をレーダーチャートで示しています

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

※中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません



【各教科の傾向】

小学校

<国語>

話し合いの記録の「書き表し方」に関する理解や、発言理由の把握、さらに資料を基に詳しく書く記述問題で全国平均を大きく上回る高評価を得ました。特に、思考・判断・表現力に関わる、文脈を捉えた理解と表現の技能が定着しています。

<算数>

全体平均は全国を下回るものの、複雑な条件から必要な情報を判断し、求め方を言葉や式で記述する思考力問題では、全国平均とほぼ同等でした。応用的な問題解決の過程を的確に表現する能力の基礎が構築されています。

<理科>

顕微鏡の操作に関する知識や、種子の発芽条件を制御した実験計画に関する問題で、全国平均を大きく上回っています。また、水の状態変化や地球環境変化の科学的思考・予測、実験技能の知識と科学的推論能力の定着がみられます。

中学校

<国語>

知識・技能領域のうち、語彙的な側面(漢字の変換)で全国平均を大きく上回りました。また、情報収集・整理を踏まえた表現・記述の一部においても全国平均を上回り、個別の基礎知識と短い表現課題に強みが見られます。

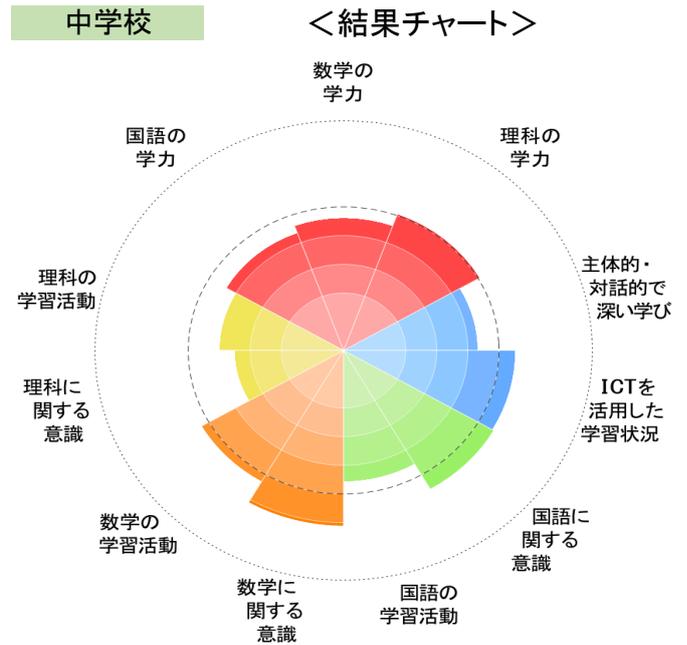
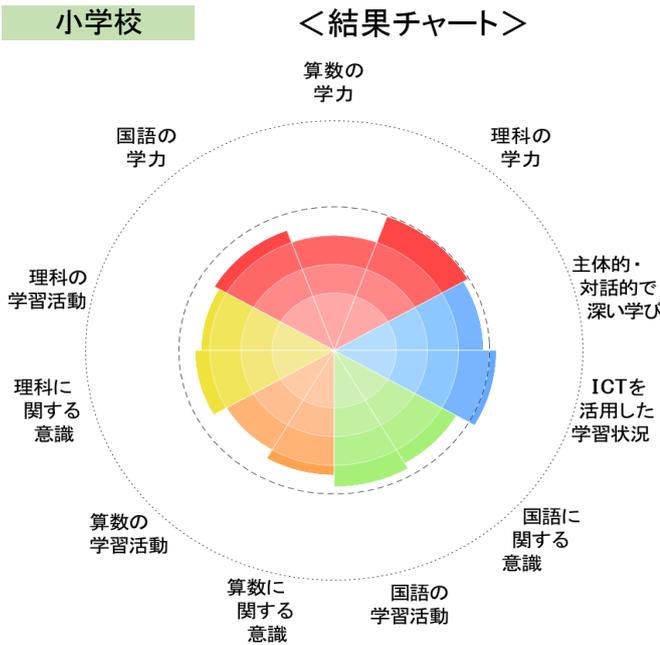
<数学>

素数の意味を問う知識・技能の基本問題で全国平均を上回りました。さらに、データの活用領域における、グラフを用いた問題解決の方法を説明する記述問題でも全国平均を上回っており、特定の応用的な思考・表現が得意な傾向がみられます。

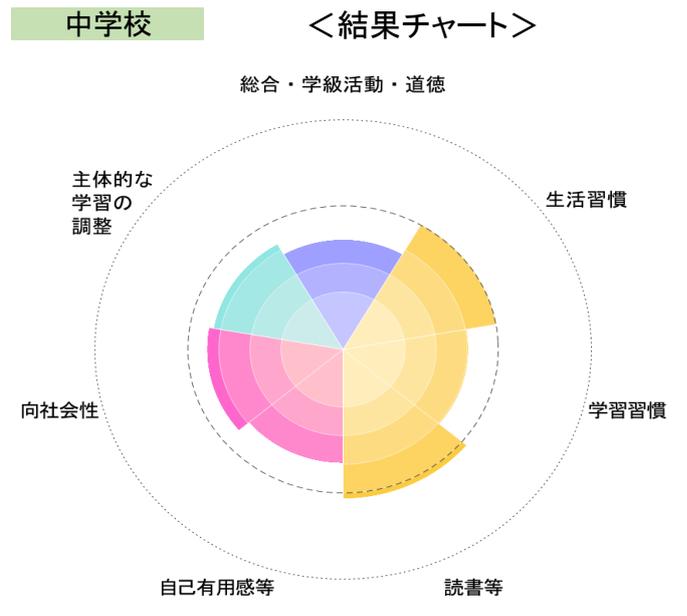
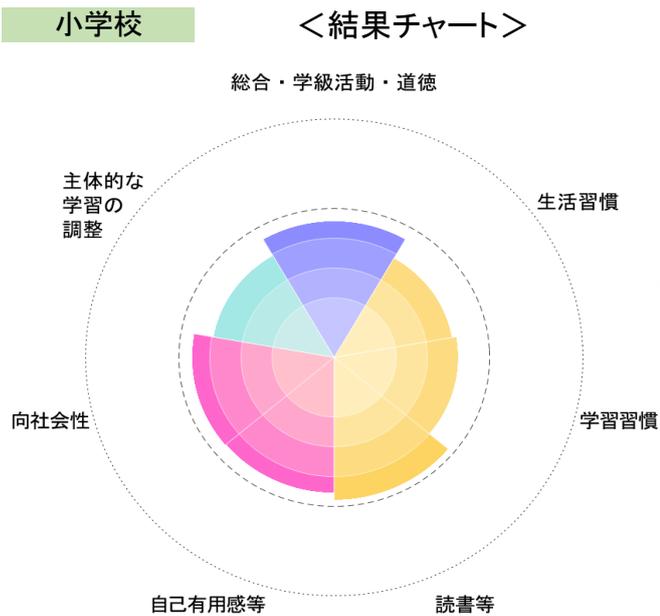
<理科>

全体のIRTスコア分布において、全国と比較して中位層から上位層の割合が高い傾向が見られます。特に、エネルギーを中心とする領域の知識に関する問題では、全国平均を上回っています。

【教科を中心とした学力・学習状況】(全国基準)



【その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)】(全国基準)



<令和7年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号
1	国語の学力	
2	算数の学力	
3	理科の学力	
4	主体的・対話的で深い学び	(31)~(35)(37)(39)
5	ICTを活用した学習状況	(28)(29)
6	国語に関する意識	(44)(45)(47)
7	国語の学習活動	(46)(48)~(51)
8	算数に関する意識	(52)(53)(55)(56)
9	算数の学習活動	(54)(57)~(59)
10	理科に関する意識	(60)(61)(63)~(65)
11	理科の学習活動	(62)(66)~(70)

<令和7年度その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

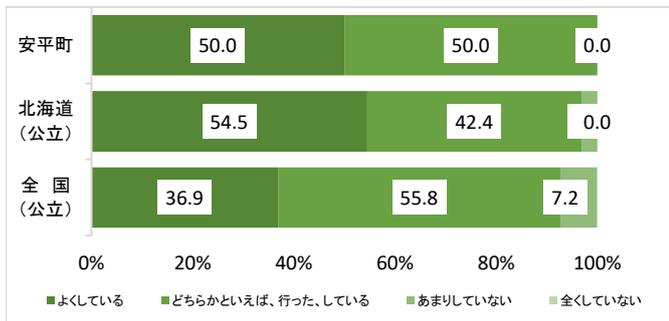
領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号
12	総合・学級活動・道徳	(40)~(43)
13	生活習慣	(1)~(3)
14	学習習慣	(17)(19)
15	読書等	(21)~(24)
16	自己有用感等	(5)(6)(10)(12)(14)(15)
17	向社会性	(8)(9)(11)(27)
18	主体的な学習の調整	(16)(36)

○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

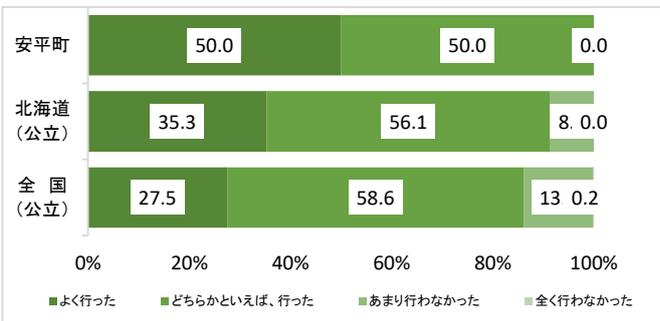
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか



中学校

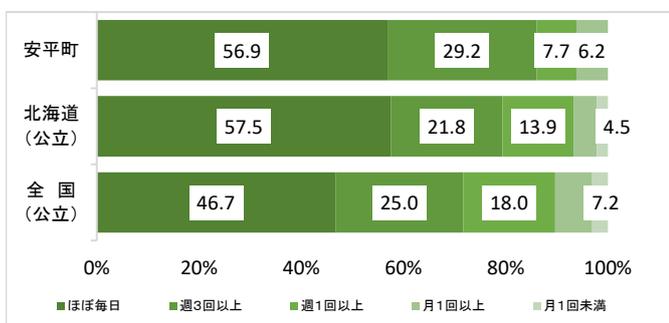
<学校質問>

授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



<児童質問>

授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか(ほぼ毎日)



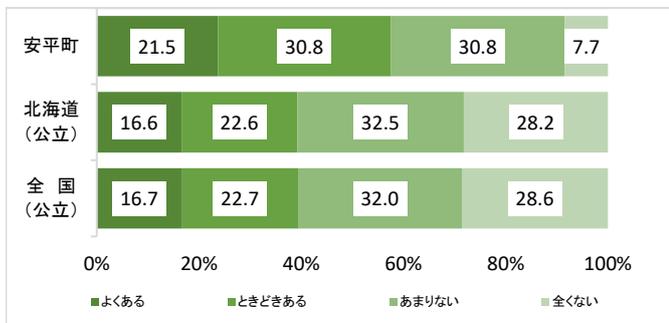
<生徒質問>

授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか(ほぼ毎日)



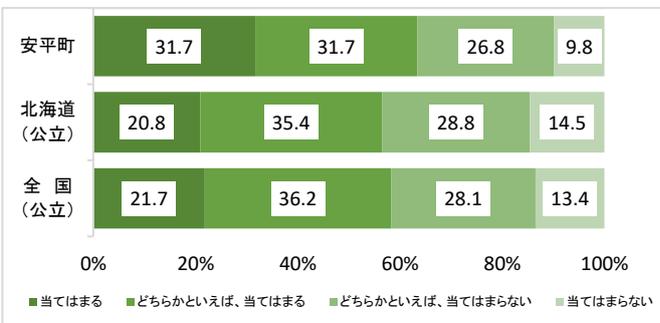
<児童質問>

地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)



<生徒質問>

数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか



○ 調査結果の分析

小学校は、探究的な学習の指導、ICT活用、地域連携において、高い評価となっています。特に、ICT機器の活用頻度が高く、日常の学習ツールとして定着しています。教育活動に積極的に地域を取り込んでいることがわかります。

中学校は、生徒が自ら課題設定・話し合い・表現する学習活動の実施について、高い評価となっています。特に、ICT機器活用の頻度が高いこと、数学の知識を実生活で活用できているという生徒の意識が高いことがわかります。

○ 今後の改善方策

小学校は、指導と児童の実感にギャップが見られます。ICTや地域との連携という強みを活かし、児童が「学び方を自分で工夫する力」や「社会貢献意欲」を実感できるよう、探究プロセスにおける振り返りや個別指導の質を高めることが重要です。

中学校は、指導と生徒の実感にギャップがあります。ICT活用や実生活への応用意識の強みを活かし、生徒が「話し合いを通じて考えを深める」思考の質を高める対話スキル指導や、個々の生徒に合わせた指導の工夫を強化することが重要です。